

千秀だより

自分で考え
表現し
挑戦し続ける子

横浜市立千秀小学校

令和6年(2024年)11月29日



12月号

URL www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/senshu/

～千に秀でる子の育成～ クラス名 R6

イチゴー会

キラキラレインボー 光のきずな
えがおのパズル 世界地図 ビビンバ
大地 MemoryRoad

学校の約束 ルール作りとマナー指導

校長 平島 幸江

校庭のイチョウの木が黄色く色づいています。暦の上では、72候の「小雪」。秋のような暖かい日もありますが、地方によっては初雪の知らせもあり、冬の訪れとともに年末の気ぜわしさを感じます。

ふりかえると、11月は多くの行事が目白押しの一か月でした。土曜参観に区球技大会、芸術鑑賞会や読書週間、区音楽会、上郷宿泊体験学習。あっという間の一か月間でしたが、充実していましたし、成長する児童の姿がそこかしこで見られました。保護者の皆様には、日々の校内での教育活動はもちろんのこと、このような行事にも準備や登下校などで、ご理解ご協力をいただいております。おかげさまで、ここまで無事に終了することができました。本当にありがとうございました。

さて、ご存じの通り、千秀小学校では、休み時間にボールけりができるようになりました。初めて「休み時間にボールけりをしたい」という児童の思いを知った時には、「いや、危ないでしょ。」と思っておりましたが、休み時間の外遊びの様子を見ていると、「いやいや、可能かもしれないぞ」と思うようになりました。小規模校のメリットで、校庭で全校児童が遊んでも、スペースがあるからです。ちょうどそんなときに、児童運動委員会児童が、ボールけりが実現するように代表委員会に提案すると聞き、すばらしいと思いました。自らの思いや願いをもち、代表委員会という場で表現し、問題解決に向かう、その児童の姿はまさに学校教育目標にある「自分で考え、表現し、挑戦し続ける子」の具現化された姿です。今回決まった「ボールけりルール」は、現在、全校児童にしっかりと定着しました。各学年児童が、自治的に学年の割り当ての日にボールけりにいそしんでいます。低学年の子が教室に戻りながら「サッカー、めっちゃ楽しかった！」と笑顔で話す姿は、発起人である児童運動委員会の児童も嬉しく感じていることでしょう。世の中のルールは、こうして作り上げられていくのだなと、改めて児童の姿に学びました。

一方で、最近課題に上がっているのは「マナー」です。先日、本校児童とバスに乗り合わせた乗客の方から、児童の乗車マナーについて心配されるお声を聞きました。大きな声でおしゃべり、ランドセルが後ろの人に当たっても気づかない、バスの中を行ったり来たり移動する、中には運転手さんに注意されても聞かない等々があったそうです。これは残念です。すぐに各学級で指導を行いましたし、今後も継続して指導していきます。マナーは、違反があっても罰則などは無く、社会生活を送る中でお互いが気持ちよく過ごすための態度や行動にすぎません。しかし、マナーを心掛けている人は、社会の中で周囲と円滑に譲り合って生活できる人です。学校は「公共の場所」ですから、廊下の歩き方、道具箱やロッカーの片づけ方、食事のしかた、トイレの使い方など、他者を気遣うマナーについて考える場が多くあります。日々の学校生活の中で、ちょっと立ち止まって周囲の様子を考える、そんなマナー美人、社会性のある子を育てていきたいです。

ルール作りとマナー指導、教職員側でも違いを見極めて、方針をそろえて指導に当たっていきます。